

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立鳶尾小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 松本 謙

学校教育目標

学校経営の方針

「心豊かに 共に未来をたくましく生きる児童の育成」  
～自分に自信と誇りを～

様々な課題に主体的に取り組み、多様な他者と協働して、集団活動や問題解決をしようとする児童の育成をめざす。

今年度の重点目標

- 1 教師がファシリテーターとなり、話し合いの仕方を学び、児童が主体的に工夫して取り組む授業・特別活動(学校行事・児童会活動・たてわり活動等)を推進する。
- 2 栽培活動などを通して、主体的に活動の手順や内容を考え、いのちや自然を大切に作る心情や、総合的な生きる力を育む。
- 3 多様な価値観にふれ、時間や国境を越えて様々な人々につながる読書活動を推進し、読書活動によって得た知識や価値観を仲間と共有し、豊かな心を育む。
- 4 対話を基盤とした児童・家庭・地域との信頼関係を構築し、地域学校協働活動を推進する。
- 5 「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるために、GIGAスクール 端末の利用や、習熟度別学習など個別最適な学びの方法を研究、実践していく。
- 6 教職員が生き生きと学び続ける姿、働く姿を見て、子どもたちが未来に希望が持てるような、職員研修及び健康的で安全な職場づくりを推進する

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
児童が主体的に取り組むために、授業改善に取り組んでいる。	1	校内研究の取組 外部講師による研修 日頃の授業での取組	教員の66.7%がGIGAスクール端末を有効に使って授業改善に努めていると回答し、児童の58%が授業がわかりやすくなったと答えている。一方で、児童が自分で調べたり、友達に聞いたりしているとする回答は35.3%となっているので、児童の探求心をいかに引き出していくかが今後の課題といえる。	次年度の重点目標を意識し、児童の思いや意欲に寄り添った授業づくりにさらに取り組んでいく。また、年度当初に講師を招聘しての研修を受け、職員全体で共有して、児童の主体性の引き出し方や個別最適化などを学んでいく。
ドリルパークの宿題では、定期的に児童の正答率・所要時間を確認して、フォローや声かけをする	1	宿題週間の取組	宿題週間に全学年でドリルパークを利用した宿題の課題を出し取り組むことができた。その後もドリルパークを活用した宿題や課題を出し、取り組む学年も増えた。一方で、漢字等の書き取りに関しては、画面上の記入が難しいなどの意見もあった。	宿題週間だけでなく、日頃からGIGAスクール端末を持ち帰っての課題を増やしたり、タッチペンを日常的に利用しての書き取りなども行っていく。また、個に応じた課題なども考えていきたい。
児童がお互いを認め合い、仲良く過ごせるような学級づくりをしていますか。	1・2・3	2週間に1度の児童指導連絡会 学期に1度の生活アンケート ケース会議	日々の学級の児童指導や2週間に一度校内で児童指導の共通理解を図る連絡を行うことで、気になる児童や学級の様子を共有し、方策を考えたりしてきた。そのため、児童の友達と仲良く過ごせていると回答した児童が77.9%にのぼり、保護者の肯定的な回答も94.7%と高くなっている。	今後もすべての児童が安心して学校生活を過ごせる学校・学級づくりに努めていく。安心した学校生活の中で、児童が自分からいろいろなことに挑戦できるようにしていきたいと考える。

児童が相談しやすい雰囲気づくりに努めていますか。	2	学期に1回の生活アンケート・児童との面談 2週間に1度の児童指導連絡会 カウンセラー・こころスマイル支援員等の面談	学期に一度の生活アンケートをふまえて、児童と面談することで、問題行動や児童の困り感などを確認してきた。必要に応じて、カウンセラーやこころスマイル支援員、養護教諭等の面談や相談など行ったり、外部機関と連携を行うことができた。不登校傾向にある児童などの対策をさらに行えるとよかった。	すべての児童が安心して学校生活を過ごせる学校・学級づくりを目指して行く中で、児童に今日の心の様子を示してもらったり、不登校傾向の児童への対応を早期に行ったりしていきたいと考えている。
日常的に命を大切に、安全に気をつける指導をしていますか。(交通安全、ヘルメット、防犯ブザーなど)	2	避難訓練 交通安全教室 不審者侵入訓練 着衣泳	普段からの児童指導や不審者侵入訓練、避難訓練等を行うことにより、教職員や児童の防犯や防災、また安全への意識が高まってきていて、命を大切に、安全に気を付けていると回答した児童が77.1%になっている。	継続して自分の命は自分で守れる安全教育を推進していく。防災教育や交通安全教育、防犯教育などを通して、児童が自分事として考え、危険を予知・判断・行動できるようにしていきたい。
児童の主体性を尊重した栽培活動を実施していますか。	1・2	校内研究の取組 各学年による栽培活動 委員会による活動	児童の思いを大切にしながら栽培活動を進めることにより、児童がこれをやってみたい、こんなことはできないかと試行錯誤しながら活動する場面が少しずつ増えてきた。しかし、まだ一部の児童に限られているので、さらに教職員側も児童の主体性に寄り添えるようにしていきたい。	児童の主体性を尊重した栽培活動をさらに推進していきたい。そのためには、教職員が児童の活動に見通しをもち、児童が安心して挑戦できる環境づくりを整えていきたいと考えている。
保護者・PTAや地域との連携を意識して教育活動を進めていますか。	3	あいさつ運動 PTAフェス 4年防災学習 6年歴史探訪	PTAと連携して朝のあいさつ運動やPTAフェスを進めることができた。また、地域の方を講師に招き、より学習内容を深めるために防災学習や歴史探訪などを行うことができた。	PTA活動の在り方や50周年の記念行事に向けた活動などを、より学校・PTA・地域が連絡を取り合い、進めていきたいと考えている。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
今年度の各グループの重点項目に対しての教職員の取組に対して、よく頑張っていると評価していただいた。学級づくりや児童と教師との関係の良さなども今後もさらによくしてほしいと意見をいただいた。また、現在も十分に地域の方が多く学校の活動に関わっているが、今後もどのようなことができるか探っていきたいという意見もいただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
グループごとに重点項目を絞って取り組むことにより、学校全体の強みや弱みが見えてきた。落ち着いた中で仲のよい人間関係が築けつつあることが強みであり、一方で児童が、自分で考えて行動する主体性を育むことの課題が見えてきた。次年度は、児童が安心した学校・学級で挑戦を繰り返す中で、自分から考えたり、行動できたりしていけるようにしたい。				